

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第33回幹事会議事次第

1 日 時：令和7年10月14日（火）14時00分～15時00分

2 場 所：オンライン（Zoom）

3 出席者：寶（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、面

陪席者：松本（防災科学技術研究所）、倉谷（）、石塚（）、小松原（セコム）、
大貫（筑波大学）、増田（）、栗原（）、酒井（）、根本（）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

- (1) 2025年度R2EC単独開催シンポジウム〔12月1日開催〕について……………資料1
- (2) 2025年度R2EC・巨大災害研究会合同シンポジウム〔3月3日開催〕について……………資料2
- (3) 共催行事について（関東学院大学 人間共生学部10周年記念シンポジウム）……………資料3
- (4) コンソーシアム会員制度の見直しについて……………資料4
- (5) その他

➤ コンソーシアム入会検討機関について

【報告事項】

- (1) JARI職員向けコンソーシアム・学位プログラム説明会開催報告……………資料5
- (2) その他

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

- (1) 協働大学院教員候補者の推薦について……………資料6
- (2) その他

【報告事項】

- (1) 参画機関インターンシップ参加報告……………資料7
- (2) 令和7年度実施入試（8月期）の結果について
- (3) その他

（配付資料）

- 資料1 2025年度R2ECシンポジウムポスター（案）……………p.3
- 資料2 2025年度R2EC・巨大災害研究会合同シンポジウム企画（案）……………p.4
- 資料3 関東学院大学 人間共生学部10周年記念シンポジウムポスター……………p.6
- 資料4 コンソーシアム会員制度の見直しについて……………p.7

資料 5	JARI 職員向けコンソーシアム・学位プログラム説明会開催報告	p.16
資料 6	協働大学院教員候補者の推薦について	p.18
資料 7	参画機関インターンシップ参加報告	p.21

2025年度
レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム

2025

12 / 1 (月) 13:30-16:50

筑波大学 東京キャンパス文京校舎 1階 134 講義室 / オンライン
(東京都文京区大塚 3-29-1 丸ノ内線茗荷谷駅から徒歩 3 分)

衛星リモートセンシングやドローンなどの空・宇宙技術は、環境監視や物流支援などの平時の活用に加え、災害時にも迅速な状況把握や支援に応用できる「フェーズフリー」な特性を持っています。本シンポジウムでは、平時・災害時を問わず地域を支える空・宇宙技術の活用事例と展望を、専門家による講演と多様な視点の議論を通じて探ります。

防災・地域づくりに関心のある皆様のご参加をお待ちしています。

参加申し込みはこちらから
<https://forms.gle/2U7n3PxZdqQ4bnCC7>

申込締切 11/28 (金)



司 会 小松原 康弘 氏 セコム株式会社 IS 研究所 研究戦略部

開会挨拶・趣旨説明

13:30-13:40 岡島 敬一 氏 筑波大学システム情報工学研究群長 / コンソーシアム幹事

第1部 講演

13:40-14:10 **衛星リモートセンシングとレジリエンス社会**

木下 陽平 氏 筑波大学 システム情報系

14:10-14:40 **事前防災を支える空のインフラと持続可能な地域社会**

酒井 直樹 氏 防災科学技術研究所
極端気象災害研究領域 水・土砂防災研究部門

14:40-15:10 **離島の生活を、空から支える ～平時・災害時の物資輸送～**

登島 敏文 氏 瀬戸内町 保健福祉課へき地診療所

第2部 パネルディスカッション

15:30-16:40 **空と宇宙の技術で支える、地域のレジリエンス**

大谷 謙仁 氏 福島国際研究教育機構 (F-REI) 研究開発推進部

第1部講演者

モレーター：岡島 敬一 氏 筑波大学システム情報工学研究群長

総括・閉会の挨拶

16:40-16:50 審 鑑 氏 防災科学技術研究所理事長 / コンソーシアム会長



主 催 : レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

お問合せ : レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局 (筑波大学システム情報エリア支援室)

Email : r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp

空と宇宙の技術で支える、 地域のレジリエンス

参加無料
要事前申込

2025年度R2EC・巨大災害研究会合同シンポジウム企画（案）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

1. 開催概要

タイトル：「安全・安心をもたらす防災DX」（仮）

開催日時：2026年3月3日（火）13:30～16:50

開催場所：ビジョンセンター東京虎ノ門 5階会議室／オンライン

2. 開催目的

近年、地震・豪雨・台風などの自然災害が頻発し、それらへの迅速かつ的確な対応が社会の喫緊の課題となっている。「安全・安心をもたらす防災DX」シンポジウムは、災害大国・日本における防災・減災の新たな展開を探ることを目的として開催されるものである。本シンポジウムでは、デジタルトランスフォーメーション（DX）の力を防災分野に取り込み、予測精度の向上、情報共有の高度化、現場対応の迅速化といった革新的な手法を通じて、安全・安心な社会の実現に寄与する道を探る。併せて、防災DXにおける科学技術の果たす役割や、地域住民との協働、行政・産業界との連携など、総合的な視点から議論を深める。科学技術の振興は、単なる研究開発にとどまらず、社会実装と実効性の確保を通じて国民生活の安全・安心に直結するものであり、本シンポジウムはその推進力となることを意図している。防災DXを通じた未来志向のまちづくりに向けて、多様な知見の交流と新たな連携の創出を目指す。

3. プログラム

開会挨拶（13:30～13:35）

寶 馨 氏：レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 会長／防災科学技術研究所 理事長

【第1部：講演（13:35～14:55）】

13:35-14:15 基調講演「防災力を最大化するデジタル技術の社会実装を目指して」（仮）

臼田 裕一郎 氏：防災科学技術研究所 総合防災情報センター長／AI防災協議会 理事長

14:15-14:35 話題提供1「LINEを活用した災害に負けない持続可能な社会の実現」（仮）

安田 健志 氏：LINEヤフー株式会社 災害支援推進部 部長

14:35-14:55 話題提供2「AIを用いた現場指揮支援システム」（仮）

山田 晃久 氏：株式会社モリタホールディングス モリタATIセンター Eラボ長

【第2部：パネルディスカッション（15:15～16:40）】

テーマ「安全・安心をもたらす防災DX」

登壇者：第1部講演者

井ノ口 宗成 氏 立命館大学 政策科学部 教授

モデレーター：岡島 敬一 氏 筑波大学 システム情報工学研究群長

総括・閉会挨拶（16:40～16:50）

木村 玲欧 氏：巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 環境人間学部 教授

※本シンポジウムは、セコム科学技術振興財団「令和7年度 学術集会および科学技術振興事業助成」の支援を受けて開催する予定です。

令和7年10月8日

2025年度 巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム合同シンポジウム

「安全・安心をもたらす防災DX」

運営委員長 岡島 敬一様

公益財団法人セコム科学技術振興財団

代表理事・理事長 佐々木 信行



学術集会および科学技術振興事業助成の審査結果について

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より当財団の事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度は、学術集会および科学技術振興事業助成にご応募頂き、誠にありがとうございました。助成予定数を大幅に上回るご応募がございました。ご提出頂きました助成申請書に基づき、企画委員会において厳正に審査した結果、下記の通り助成が決定いたしましたので、通知致します。

つきましては、助成金の支払手続きを開始したく、別紙を参照の上、振込先口座に関する情報を令和7年10月17日(金)までに当財団事務局にお知らせ下さい。

敬具

記

助成行事：2025年度 巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム合同シンポジウム

「安全・安心をもたらす防災DX」

助成金額：570,000円

【お願い】

- ・当財団からの助成を受けていることを、プログラムや配布資料等に必ず明示して下さい。
- ・開催予定が大きく変更又は開催中止となった場合には、当財団まで必ずご連絡下さい。助成金振込後の場合には、助成金を返還して頂くことがあります。
- ・助成金が余った場合は、返還して頂くことがありますので、あらかじめご了承下さい。
- ・行事開催後2ヶ月以内に開催報告書、会計報告書（書式D-2：当財団ホームページより入手可能）を当財団に提出して下さい。提出先は下記連絡先です。
- ・今後、事務局への連絡や問い合わせの際は、つぎの助成番号を記載あるいはお伝えください。

【助成番号：R070716】

以上

連絡先 公益財団法人 セコム科学技術振興財団 事務局

住所：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

TEL：03-5775-8124 E-mail：sstfoundation@secom.co.jp Web：<https://www.secomzaidan.jp/>



災害研究を リスクコミュニケーションに 生かす

わが国では地震災害や火山災害が多発しています。
地震や火山の現象を解明・予測して、その知見を人々の防災力向上に
生かすために、どのような研究が行われているでしょうか。
このシンポジウムでは、災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究の
現状をわかりやすく紹介するとともに、リスクコミュニケーションや
教育現場で生かすための方法について考えます。

プログラム

総合司会 兵庫県立大学環境人間学部 教授 木村 玲欧 氏

基調講演:「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究の現状」
東京大学地震研究所 教授 加藤 尚之 氏

講 演:「災害リスクコミュニケーションのあり方」
関東学院大学人間共生学部 准教授 大友 章司 氏
「災害研究成果をどう教育場面で生かすか」
新潟地方気象台 リスクコミュニケーション推進官 永田 俊光 氏

パネルディスカッション:
「災害研究をリスクコミュニケーションにどう生かすか」

日時

2025年11月28日(金)
15:00~17:00

会場

関東学院大学 横浜・関内キャンパス
テンネー記念ホール
(横浜市中区万代町1-1-1 JR関内駅より徒歩約2分)



google map
位置情報

参加無料

申込不要

主催

関東学院大学人間共生学部、東京大学地震研究所 地震火山観測研究推進協議会 防災リテラシー部会

共催

関東学院大学防災・減災・復興学研究所、防災教育チャレンジプラン実行委員会、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム、
巨大災害研究会、株式会社新建新聞社 リスク対策.com、一般社団法人 防災教育普及協会、一般社団法人 ドローン減災士協会

お問い合わせ

関東学院大学 関内キャンパス庶務課 6 電話:045-306-9333(代表)/(内線)5011

コンソーシアムの会員制度の見直しについて

筑波大学岡島

背景・主旨

現在、コンソーシアムの会員制度として自治体や大学、また任意団体等が想定されていない。これら機関との連携を進めるにあたり、会員制度の見直しを検討したい。

- ・現行のコンソーシアム会員種別

正会員：コンソーシアム規約第3条に掲げる事業を行う研究機関等

準会員：コンソーシアム規約第3条に掲げる事業の一部を行う研究機関等

なお、準会員はこれまでおらず、位置づけも不明瞭のため併せて見直しを検討したい。

改定案（概要）

- 「特別会員」の創設

特別会員：コンソーシアム規約第3条に掲げる事業の一部を行う、筑波大学以外の大学、行政機関、及び会長が本コンソーシアム事業に特別に寄与すると認めた団体等

- 「準会員」の廃止

規約改定案

別紙参照

(参考：想定される機関)

- ・関西国際大学
 - ・岩手県立大学防災復興支援センター
 - ・レジリエントライフプロジェクト（RLP）
- など

以上

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約 (改定案)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会
平成29年12月26日制定
平成30年 7月19日改正
令和 2年10月16日改正
令和 3年 6月 8日改正
令和 4年 3月 7日改正
令和 7年 3月 6日改正
令和 年 月 日改正

第1章 総則

(名称)

第1条 本コンソーシアムの名称は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称し、英語名を Resilience Research and Education Promotion Consortium（「R²EC」と略す。）とする。

(目的)

第2条 このコンソーシアムは、大学、研究機関、産業及び行政の連携・交流の促進を図るとともに、研究教育とその実用化を支援し、筑波大学とつくば市及び近郊地区の研究機関、企業等の連携により筑波大学に開設する協働大学院方式のリスク・レジリエンス工学学位プログラムを企画運営し、リスク・レジリエンス分野における日本ひいては世界の知と研究教育の核となる活動を支援することを目的とする。

(事業)

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 総会を開催し、リスク・レジリエンスに係る活動の連絡調整を行う。
- (2) 筑波大学に開設する協働大学院方式による学位プログラムへの参画団体、担当教員及び企画に関し調整を行う。
- (3) セミナー、講演会、研究会等を実施する。
- (4) コンソーシアムに関わる国内外の関連機関等との連携を推進し、必要に応じてシンポジウム等を開催又は共催する。
- (5) その他前条の目的を達成するための事業を適宜実施する。

第2章 会員

(会員)

第4条 コンソーシアムは、第2条の目的及び前条の事業を行うことに賛同する大学、研究機関、企業、団体、行政機関等（以下「研究機関等」といふ。）をもって構成し、会員の種別は、次のとおりとする。

- (1) 正会員 前条の事業を行う研究機関等、及び筑波大学
- (2) 特別準会員 前条の事業の一部を行う、筑波大学以外の大学、行政機関、及び会長が本コンソーシアム事業に特別に寄与すると認めた団体研究機関等
また、正会員・特別準会員（以下、「会員」といふ。）を別表により明記するものとする。

(入会・退会手続き)

第5条 入会を希望する研究機関等は、次の入会申込書をコンソーシアム会長あてに提出するものとする。

(1) 正会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム正会員入会申込書（別紙様式1）

(2) **特別準会員** レジリエンス研究教育推進コンソーシアム**特別準会員**入会申込書（別紙様式2）

なお、退会の際は、別紙様式3により、会長あてに申し出るものとする。

(除名)

第6条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、除名することができる。

(1) 本規約又は関連する定めに反したとき。

(2) 本コンソーシアムの名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をする等、会員としてふさわしくない行為をしたと認められるとき。

(3) その他、除名すべき正当な事由が認められるとき。

2 前項の規定により、会員を除名しようとするときは、当該会員に予め通知するとともに、弁明の機会を与えなければならない。

第3章 役員

(役員)

第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。

(1) 会長

(2) 副会長 2名

2 会長は、正会員の中から互選により選出する。

3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。

4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。

5 役員の任期は、原則2年とし、再任は妨げない。

6 会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された会長の任期は、新たに開始するものとする。これに伴い、副会長の任期も新たに開始するものとする。

7 副会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された副会長の任期は、前任者の残任期間とする。

第4章 組織

(総会)

第8条 コンソーシアムの最高機関として、総会を置く。

2 総会は、会長がこれを招集する。

3 会長は、総会の議長となる。

4 総会は、次の委員で構成する。

(1) 正会員の代表者

(2) その他、会長が指名する者

5 総会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の改廃

(2) 会長及び副会長の選任

(3) 会員の入会又は退会、除名に関すること。

(4) 第3条に規定する事業の調整及び運営に関すること。

(5) その他、コンソーシアムの運営に関し必要なこと。

6 前項に掲げる事項の審議については、第9条に規定する運営委員会に付託することができるものとする。

(運営委員会)

第9条 第8条第6項の規定に基づき、総会の下に運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、運営委員会の議長となる。
- 4 運営委員会は、次の委員で構成する。
 - (1) 正会員の代表者
 - (2) その他、会長が指名する者
- 5 運営委員会は、第8条第6項の規定に基づき、総会の付託を受けて、第8条第5項に掲げる事項について審議を行う。
- 6 前項に掲げる事項の第8条第5項(3)の特別準会員に関すること、(4)及び(5)に係る審議については、第10条に規定する幹事会に付託することができるものとする。

(幹事会)

第10条 第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の下に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、幹事会の議長となる。
- 4 幹事会は、次の委員で構成する。
 - (1) 会長
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 正会員の中から互選により選出する委員 若干名
 - (4) リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー
 - (5) その他、会長が指名する者 若干名
- 5 幹事会は、第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の付託を受けて、第8条第5項(3)の特別準会員に関すること、(4)及び(5)に掲げる事項について審議を行う。

(代理出席)

- 第11条 第8条第4項に定める総会の構成員、第9条第4項に定める運営委員会の構成員及び第10条第4項に定める幹事会の構成員は、それぞれの規定にかかわらず、やむを得ない事由により総会、運営委員会又は幹事会に出席できない場合には、代理人を出席させることができる。
- 2 前項の規定により、代理人が総会、運営委員会又は幹事会に出席する場合は、代理人の行為を総会、運営委員会又は幹事会の構成員の行為とみなす。

(議決)

- 第12条 総会、運営委員会及び幹事会は、過半数の構成員が出席しなければ議事を開き、議決することができない。
- 2 総会、運営委員会及び幹事会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

- 第13条 総会、運営委員会及び幹事会は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与)

- 第14条 コンソーシアムは、筑波大学に開設する、協働大学院方式によるリスク・レジリエンス工学学位プログラムの運営母体となる。
- 2 リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与は、筑波大学が定める規則等に基づき行う。

(事務)

第15条 コンソーシアムに関する事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、筑波大学の関連部署の協力を得るものとする。

第5章 雜則

(報酬)

第16条 会長、副会長、幹事及びその他コンソーシアムの運営管理に関与する者は、無給とする。

(解散)

第17条 コンソーシアムの解散は、総会において出席者の過半数の同意をもって決するものとする。

(その他)

第18条 本規約に定めるものの他、コンソーシアムの管理運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成29年12月26日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年7月19日から施行する。

附 則

この規約は、令和2年10月16日から施行する。

附 則

この規約は、令和3年6月8日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この規約は、令和4年3月7日から施行し、令和3年10月13日から適用する。

附 則

この規約は、令和7年3月6日から施行する。

附 則

この規約は、令和 年 月 日から施行する。

別表（第4条関係）

○ 正会員

区分	機関等名称
企業	エヌ・エフ・ラボラトリーズ株式会社 セコム株式会社 東急総合研究所株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 日本電気株式会社 モリタホールディングス株式会社 NTT 宇宙環境エネルギー研究所
団体	一般財団法人 DRI ジャパン
研究機関	一般財団法人 電力中央研究所 一般財団法人 日本自動車研究所 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 福島国際研究教育機構 National Science and Technology Center for Disaster Reduction
行政機関	
大学	国立大学法人 筑波大学

○ 特別準会員

区分	機関等名称
<u>大学等</u>	
<u>行政機関</u>	
<u>団体等</u>	

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
正 会 員 入 会 申 込 書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和 年 月 日

所在地

機関名

代表者（自署又は公印）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
特別準会員入会申込書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和 年 月 日

所在地 _____

機関名 _____

役職 _____

氏名（自署） _____

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
退会届

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、令和 年 月 日をもって、下記の理由により貴コンソーシアム
を退会いたしたく、お届けいたします。

理由：

令和 年 月 日

所在地

機関名

役職

氏名（自署）

JARI 職員向けコンソーシアム・学位プログラム説明会開催報告

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局

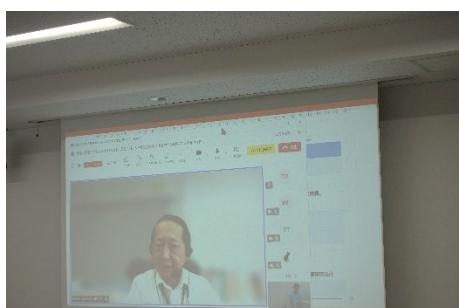
2025年8月29日、コンソーシアム参画機関である日本自動車研究所（JARI）にて、職員向けの「筑波大学大学院リスク・レジリエンス工学学位プログラム説明会」が開催されました。

本説明会は、JARI職員が、コンソーシアムが企画・運営する「協働大学院方式」による学位プログラムについて理解を深め、将来的な学位取得（社会人博士）を選択肢の一つとして検討いただくことを目的に企画されたものです。

当日は、大学側によるコンソーシアム・プログラム紹介に加え、実際に本プログラムで学位を取得したJARI職員や、教員としてプログラムに関わるJARI職員による話題提供が行われ、多様な視点から経験や知見が共有されました。

オンライン参加を含め、多くの職員の皆様にご参加いただき、コンソーシアムの枠組みを活用した両機関のさらなる連携に向けた貴重な機会となりました。

■開会のご挨拶：JARI 鎌田 実 所長（オンライン）



はじめに、鎌田所長よりご挨拶をいただきました。

JARIと筑波大学、コンソーシアムの一層の連携に向けた期待の言葉が述べられました。

■コンソーシアム・学位プログラムの紹介：

筑波大学 岡島 敬一 氏（システム情報工学研究群長、前学位プログラムリーダー）



続いて、岡島教授より、コンソーシアム及びコンソーシアムが企画・運営する「協働大学院方式」によるリスク・レジリエンス工学学位プログラムの概要紹介がありました。

一定の研究業績を持つ社会人が1年で学位取得することができる「博士後期課程 早期修了プログラム」の制度についても説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

質疑応答では、入試や学生の就職等について質問が及び、JARI世話人である伊藤誠教授（筑波大学システム情報系）も参加して意見交換が行われました。



■修了者の声：JARI 國富 将平 氏（安全研究部）



続いて、伊藤誠教授の指導のもと、1年間の早期修了プログラムにより2023年度に博士号を取得した國富氏より、本学位プログラムを選んだ理由や学位取得までのプロセスについて自身の経験をお話いただきました。在学中に特に刺激を受けた授業として、「学位プログラム演習」内での模擬の学会発表が挙げられたほか、仕事・プライベートとの両立のコツなど、社会人ドクターならではの経験・知見を提供いただきました。

■教員の立場から見た学位プログラム：

JARI 安部 原也 氏（自動走行研究部、筑波大学 教授（協働大学院））

JARI 北島 創 氏（自動走行研究部、筑波大学 准教授（協働大学院））



続いて、協働大学院教員として学位プログラムに携わる安部教授および北島准教授より、活動内容の紹介がありました。講義、研究指導、学位論文審査などを通じて、次世代を担う人材の育成に直接関わる中で、自身の視野を広げる機会にもなっているとのコメントがありました。

■閉会のご挨拶：JARI 一色 良太 専務理事



最後に、一色専務理事より、本日の説明会を振り返っての総括コメントをいただきました。学位取得や協働大学院教員としての関わりを含め、今後コンソーシアムの枠組みを活用し、JARIと筑波大学との連携がさらに深まることへの展望が語られ、本会は盛況のうちに締めくくられました。

令和7年10月 日

国立大学法人筑波大学 システム情報系
系長 鈴木 健嗣 殿

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
会長 審 馨

協働大学院教員候補者の推薦について (案)

令和8年4月1日付けの協働大学院教員候補者を下記のとおり推薦します。

記

所属・役職： 一般財団法人電力中央研究所 社会経済研究所 主任研究員
氏名： 稔貫 峻一

以上

2025.07.11

稗貫 峻一

Shunichi Hienuki

社会経済研究所

主任研究員

研究分野 : Life Cycle Assessment (LCA)、Input-Output Analysis (IOA)、エネルギー技術評価、社会総合リスクアセスメント、受容性分析、環境・安全性評価



学歴

2015年9月	横浜国立大学大学院 環境情報学府 環境イノベーションマネジメント専攻 博士課程後期修了
2015年10月 –	横浜国立大学 先端科学高等研究院 (リスク共生社会創造センター) 産学官連携研究員、特任教員 (助教) など
2021年3月	電力中央研究所 社会経済研究所 協力研究員
2018年4月 – 2021年3月	横浜国立大学 先端科学高等研究院 (リスク共生社会創造センター) IAS客員准教授
2021年4月 – 2023年3月	電力中央研究所 社会経済研究所 主任研究員
2023年4月 – 現在	横浜国立大学 総合学術高等研究院 (リスク共生社会創造センター) IMS客員准教授
2023年4月 – 現在	長崎大学 大学院総合生産科学研究科 (環境科学系) 非常勤講師
2024年4月 – 現在	武蔵野大学 工学部 サスティナビリティ学科 非常勤講師
2024年5月 – 現在	立命館大学 総合科学技術研究機構 客員研究員

外部委員 (現在)

- IEA Technology Collaboration Programme Safety and RCS of Large Scale Hydrogen Energy Applications (Task

電力中央研究所 社会経済研究所

- ・一般財団法人 日本LCA学会 年会実行委員会 委員
- ・一般財団法人 日本エネルギー学会 学融合分科会 幹事

学位

博士(環境学)

所属学会

日本LCA学会 日本エネルギー学会 日本エネルギー資源学会 日本リスク研究学会
NPOリスク共生社会推進センター

受賞/表彰

【受賞歴】

- ・平成23年度 エネルギー学会奨励賞
- ・第7回 日本LCA学会研究発表会 優秀口頭発表賞
- ・第8回 日本LCA学会研究発表会 優秀ポスター発表賞
- ・The 11th International Conference on EcoBalance, The Bronze Poster Award
- ・平成30年度 日本エネルギー学会論文賞
- ・リバネス研究費環境革命賞
- ・日本LCA学会 奨励賞

その他

【Research Map】 <https://researchmap.jp/hienuki>

アクセスマップ

利用規約

Corporate site

日程	機関名	実習テーマ	参加者
R7.7.22-8.22 (実習日数15日間)	日本自動車研究所	ドライビングシミュレータ実験の結果分析、最新研究に関する文献調査、および自身の研究内容発表と施設見学	M1・1名

(参加後のコメント)

日本自動車研究所での1ヶ月間のインターンシップは、自動車業界の最前線技術に触れる貴重な経験となりました。特に印象的だったのは、ドライビングシミュレータ実験での視線行動分析作業です。25名分のデータを分析し、年齢や情報提示位置による違いを明確化できたことで、実験研究の手法を実践的に学べました。また、Waymoの40ページに及ぶ英語論文の調査では、アフォーダンス理論を交通分野に応用した先端研究に触れ、自動運転技術の理論的基盤を深く理解できました。レベル3自動運転車の試乗やAD/ADAS HiLSの見学を通じて、MATLAB/Simulinkによる制御モデル開発の実用性も実感しました。産学官連携による中立的な研究機関の役割と、モデルベースシミュレーションの重要性を学び、今後の研究活動に活かしていきたいと思います。



日程	機関名	実習テーマ	参加者
R7.8.18-29 (実習日数10日間)	電子航法研究所	航空機無線信号のデータ分析	M1・1名

(参加後のコメント)

このたび、電子航法研究所のインターンシップに参加し、とても良い経験になりました。先生から与えられた課題に一人で取り組むことで、自分で考えて問題を解決する力の大切さを感じました。実際の仕事の方法や手順を学びながら、学校で学んだ知識を使うこともでき、とても勉強になりました。また、社員の方からアドバイスをもらい、自分の考え方の良い点や直すべき点にも気づくことができました。今回の経験を大学での勉強や将来の仕事に生かし、さらに成長していきたいと思います。最後に、このような機会をくださった電子航法研究所の皆様に感謝いたします。

